

企業ニュース **ダイキン工業**

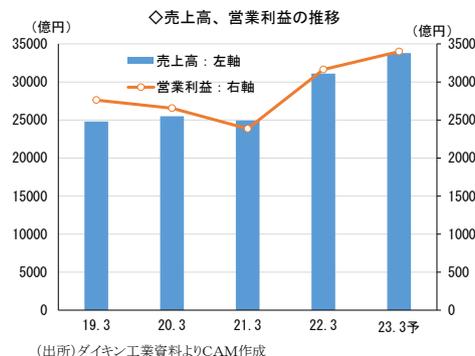
(東証プライム : 6367) <https://www.daikin.co.jp>

作成者: 奥村義弘

空調市場のリーディングカンパニー

1924年創業。空調を中心に展開する。さまざまな業務用・家庭用エアコン、冷凍・冷蔵装置などを扱う。ヒートポンプ暖房・給湯など新領域の拡大も進める。フッ素化学製品でも世界的メーカー。半導体エッチング剤、フッ素樹脂、フッ素ゴム、通信ケーブル用樹脂などの製品群を有する。建機向け油圧機器、防衛省向け砲弾なども取り扱う。

戦略経営計画「FUSION25」では、成長戦略3テーマとして「カーボンニュートラルへの挑戦」「顧客とつながるソリューション事業の推進」「空気価値の創造」を掲げる。22.3期の売上高構成比は空調・冷凍機91%、化学7%、その他2%。



重点8テーマを中心にさらなる収益力強化を目指す

23.3期の通期会社計画は売上高が3兆3,800億円、前期比9%増、営業利益が3,400億円、同7%増。今期もグローバルな空調需要は旺盛だが、経営環境は新型コロナウイルス感染症の影響、地政学リスクの高まりなどで依然不透明である。また、原材料市況の高騰、物流コストや人件費の上昇などインフレの高進でコストアップ要因も過去に経験のないレベルに悪化する見通し。当社の強みである、販売力、商品開発力、調達・供給力で対応し、過去最高業績の更新を目指す。想定為替レートは1ドル=116円、1ユーロ=126円。原材料費(物流費を含む)1,500億円、固定費ほか633億円の減益要因を拡販419億円、売価改善1,500億円、コストダウン450億円の増益要因で打ち返す計画。為替の効果は見込んでいない。

戦略経営計画「FUSION25」では、定量目標に26.3期の売上高3.6兆円、営業利益4,300億円(営業利益率約12%)を掲げる。今年度の重点テーマには、①戦略的売価施策、②業務用空調強化策などさらなる販売力強化、③変動費コストダウンの極大化、④物流コスト追加効率化策の実行、⑤既存固定費の効率化、⑥2023年度以降も見据えた、調達・供給力強化、⑦FUSION25重点テーマの加速と収益化、⑧買収会社、大型設備投資の成果創出・収益化を掲げている。

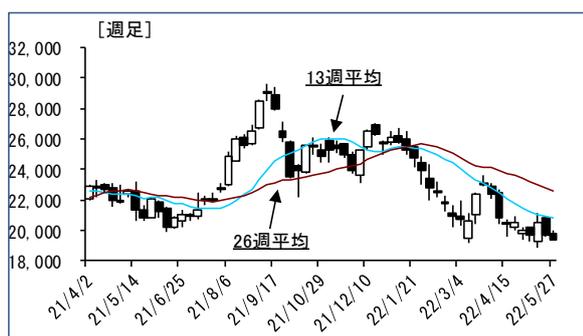
[株価動向・投資判断]

コロナ特需の反動減などが意識されるが、グローバル需要は旺盛で懸念は小さい。株価は中国の景気対策効果の発現時期などをうかがう動き。サマーストックとしても意識されよう。

<6367 ダイキン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	2,493,386 (▲2)	238,623 (▲10)	240,248 (▲11)	156,249 (▲8)	534.0	160.00
22.3	3,109,106 (25)	316,350 (33)	327,496 (36)	217,709 (39)	743.9	200.00
23.3 予	3,380,000 (9)	340,000 (7)	345,000 (5)	228,000 (5)	779.0	200.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2022/5/27)	19,375 円
年初来高値(高値日)	26,710 円(22/1/6)
同 安値(安値日)	18,850 円(22/5/10)
予想P E R(23.3予)	24.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	6,729.7 円
P B R	2.88 倍
予想配当利回り	1.03 %
(1株当たり配当金年200.00円)	
R O E(22.3)	12.0 %
発行済み株式数	29,311 万株